

平成23年度 第2回志度高校学校会議議事録

H23.12.15 研究企画部

日時・場所 平成23年12月15日(木) 18:00~20:00 於 本校研修室

出席者

生徒代表 爲久 真(生徒会長)、國見千春・大栗千春(生徒会副会長)
潮 樹・久保和幹・喜多川喬也・宮本大輝(3年生徒理事)
濱田 愛・岩崎 唯(2年生徒理事)、三浦葉月・安富裕貴(1年生徒理事)
保護者代表 西應佳樹(P T A会長)、日向和加子・山本知江美・岩崎真紀(P T A副会長)
熊野千恵(3年団)
地域代表 砂山長三郎(志度高校同窓会長)、十河孝男(さぬき市商工会長・徳武産業社長)
岡裕子(志度まちぶら探検隊事務局長)、古市泰彦(さぬき市総務部地域情報科副主幹)
木村千佳(さぬき市障害者就労支援施設管理者・サービス管理責任者)
教職員代表 砂留修司(校長)、天野徹・高儀雅俊(教頭)、竹下卓慶(教務主任)
松浦宏和(商業科)、荻野尚令(電子機械科)、堺 寛(情報科学科)
新鞍 恵(3年団)、松岡 晶(2年団)、大西かの子(1年団)
多田正志(総務部主任)、溝渕正起(特別活動部主任)、佐立 明(生徒指導主事)
指導助言 柳澤良明(香川大学教授)
事務局 大熊美紀(生徒)、野村慎二(保護者)、植村千恵・松尾美紀・中林靖詞(研究企画部)
十川和久(研究企画部主任・学校会議統括)

議事内容報告

1 学校長挨拶

本日は教育委員の方が来られています。前回の保護者からの提案にもありましたように、地域の方にもお越し頂いています。地域の方に学校に来ていただくことは、あまりない機会だと思いますので、この機会に幅広い意見を頂いて有意義な会になるようにして頂きたいと思っております。

2 諸注意等(事務局より)

事務局より会にあたっての留意事項、進行について要領説明。議題ごとに、議題提案者の立場から、それぞれ保護者・生徒が進行をつとめることを確認。

3 議事

◎フォーラム①「志度高校と地域との関わりについて」

・・・・・・【保護者側提案・司会進行 西應佳樹】

<議題提案の趣旨説明>

司会：志度高校はいろんな場面で地域との関わりがあるように見えるが、それは一部の生徒だけに限られているように思われる。全校生徒規模でもっと地域に関わっていけるような活動があっても良いのではないかと。開かれた学校という言葉が言われるが、学校が地域に開くというよりも、生徒が地域に溶け込んでいてこそ、初めて地域に開かれた学校と言えるのではないかと。げんない学園などの活動が、マスコミに取りあげられたり、新聞などに掲載されたりしているのを目にするが、それは数名の生徒を中心にした活動であり、それを大きな形に変えていければと思う。今回は教職員や保護者、生徒から見えないところからご意見をいただきたく、地域の有識者の方々にもお越し頂いた。

<討議>

司会：地域の方から見た現在の志度高校、あるいは志度高生について、部活動も含めた大きなところからご意見を順にお願いします。

地域代表：同窓会長というよりも、げんない記念館館長として、志度高校にはお世話になっている。今年もげんない学園では生徒に来てもらった。より多くの生徒の参加をということだが、人数の多い少ないということよりも、本当に希望する生徒が参加するというのが望ましい。最近、家庭が個に分かれてしまっていて、生徒が社会的な知恵がないままに大きくなっているように感じられるので、生徒達が社会の中でふれあうということに大きな意味があると考えている。そういう点からも、学校側から積極的に地域に関わってくれるのは有難いことだと思う。

地域代表：私も卒業生の一人である。学校という立ち位置でビジネスライクに言うと、生徒は商品である。それぞれの中学校から入学してきた荒削りの未完成な商品を3年間でどう磨き上げて売り出すのかという観点で考えるべきであると思う。生徒は商品で、顧客は就職先の企業であり、進学先の専門学校・大学である。志度高の生徒であれば、顧客が買ってくれるだけの価値を見いだせる生徒にすることが学校の役割。18歳という若い年齢では価値を見出しにくく思うかもしれないが、可能性などの価値を十分にもっていると思うので、どの様な思いで高校3年間を過ごすかということで、大きな違いが生まれると思う。地域とどう関わるかという点からは、地域にとって学校があるということは、ある意味迷惑なことである。通学によって交通渋滞を引き起こしたり、周りの住宅が日陰になったり、行事の際には周囲に騒音を出したりなど地域に学校があることで迷惑がかかっている。もちろん、学校があることで、良い面もあるのだが、迷惑をかけている部分もある。学校も生徒もその迷惑の分、それをどう地域にお返しをするのかという観点で考えてみて欲しい。

地域代表：げんない学園を通して、生徒が短期間ですごく成長する姿を見ている。志度高生は素直でかわいい生徒だと感じている。大人がお願いをするより、高校生がお願いした方が、地域の人は喜んで協力してくれるという印象がある。高校生が地域に飛び出していくことで、地域が元気ももらっている。先日も、げんない君をかぶった高校生が参加者以外の通りすがりの人にも愛嬌をふりまいて、その周りに人が集まり、げんない君と写真を撮っている光景もみた。そうやって、高校生が頑張ってくれることで、地域が元気になる。そのような、高校生が地域に出て活躍できる、そういう器を作ってあげたいと思っている。

地域代表：志度高校の文化祭に参加させてもらった。障害を持った人たちにとって、高校の文化祭に参加して、高校生の活動を見るということがとても良い経験になった。自分たちのところだけでなく、他の機関とも提携して、交流の場を設けていただけると、障害を持った人たちにとっても、とても良い機会になると考えている。

地域代表：取材で何度か学校に来る機会があるが、生徒がかならず挨拶をしてくれる。話を聞いていても、しっかりした考えを持っており、素直だと感じている。1年でものすごく成長しているのが分かる。工作上、イベントばかり追いかけがちであるが、校内新聞などを読ませていただくと、毎日の目立たない部分でも、専門分野で色々頑張っていることが分かる。日常的にやっていることは当たり前で思いがちなが、外部である自分から見ると、凄いことをやっているなど感じるので、自信をもって専門分野を生かして頑張りたい。

地域代表：朝、登下校中の生徒や、駅近くのサブグラウンドで練習している生徒が駅にトイレを借りに来たりする姿によく接するが、明るく挨拶をよくしてくれる。地域の関わりという点では、過去には、卒業式や体育祭の時などに志度の消防署長や、警察署長、駅長らが学校を訪れたりしていたが、その様な関わりは薄れて来ている。それについては、我々企業側も悪いと思う。自分自身は案内を頂いたこの前の文化祭に来校して買い物をさせてもらった。志度高校は、良い学校であると思うので、今後も関わりを持ちたいと思う。

司会：おおむね、お褒めの言葉であったと思う。その中で、家庭が個になっていて、地域の方に社会のルールなどを教えてもらって、大人になっていくということは過去も、これからもそうだと思う。学校が迷惑な存在だというのは意外な観点の意見であった。この様な地域の方の意見も踏まえながら、生徒達は地域との関わりについて、どのような意見や考えを持っているのか聞かせて欲しい。

生徒：生徒会の方では、新しい案は出てこなかったが、例えば、今やっている志度駅の清掃であれば、通学圏内の他の駅にまで清掃範囲を広げるなど、色々考えて行きたい。

司会：先生方の方からもご意見をお願いします。地域との関わりの深い、M先生をお願いします。

教職員：げんない学園についても取り上げられたが、自分がげんない学園を始めたのは「学校が地域に貢献する」というのは少し異なる。志度高の生徒が志度のことを知らなさすぎると感じ、生徒がもっと地域について知り、志度という地域を好きになって欲しいという思いから始まった。

げんない学園の参加者に地域のことを教えるために、生徒自信が志度のことを学び、地域の色々な人たちと関わって、志度を好きになって欲しいと思っている。関係者みんなの知恵を頂いてげんない学園をすることが出来た。最初は無理だと思いつながらやっていた生徒も地域の方が喜んでくれているのを肌で感じることで、生徒もやりがいを感じ、成長出来たのだと思う。げんない学園に限らず、前任校では「ボランティアデー」をつくっていたこともあるが、わざわざそういうことをしなくても、生徒がそういう気持ちを持ってくれば良い。

司会：そのような、生徒からの提案を待ちたいと思う。他にご意見のある先生方お願いします。

教職員：学校が地域に積極的に働きかけるというよりも、地域に信頼される生徒、学校であることが地域との関わりということになると思う。もちろん、学校としてできることがないか、考えていきたいとは思いますが。

教職員：生徒に聞きたい。あなたたちは志度という町をどう思っているか。

生徒：志度に住んでいて、小中高とずっと志度にいる。中学校では桐下駄・染め物などをした。自分が通った学校はどれも地域との関わりを経て、卒業していくという機会を設けることが多いと感じている。

生徒：ずっと志度に通っている。同じく地域と関わる機会がとても多いと感じる。しかし、まだ知らないこともあると思う。

生徒：高校で初めて志度に来た。この学校で初めて地域とのかかわりを持った。園児交流会は子供たちと関わることで、志度のこと知れるし、保育士になりたい人には進路にも関わる経験が出来る。部活動ごとの挨拶運動では近所の方にも挨拶をしたりしてとても良いことだと思う。このような活動を続けていくことも大事だと思う。

生徒：高校で初めて志度に来た。同じく地域との関わりが多いと感じている。この学校会議はめったに聞くことのできない保護者や地域の人の意見も聞いて貴重な機会であると感じているが、まだ他にも交流の余地はあると感じている。もっと地域に出て、地域と関わることで志度について学び、志度を好きになれると思う。もっとそういう機会を増やしたい。

生徒：高校ではじめて志度に来た。志度は店がたくさんあり、交通機関があるという印象だけで、あまり志度のこと知らなかった。地域とのふれあいの機会は増やすと良いと思う。

生徒：地域の人との会話ができることが良いところだと感じている。JR通学をしているが、志度の駅員さん達にもやさしく接していただいて、毎朝楽しく会話できて嬉しく思っている。地域との関わりがもっと増えると良い。

生徒：高校から志度に来た。挨拶運動で地域の人に挨拶をすると、地域の人にも挨拶を返していただけるので、良い地域だと思っている。自分の地元では挨拶が返って来ないこともある。

生徒：自分が志度高に通った3年間の中では、あまり地域の人に関わる機会は無かったが、他の人の話を聞いていると、もっとそういう機会があれば良かったと思っている。自分の様に地域の人と関わる機会が少ない生徒にも、その様な機会を増やして欲しいと思う。

生徒：地域との関わりが多く、良い町であると思う。

生徒：挨拶運動・園児交流会も続けて行って欲しい。

保護者：さぬき市内に住んでいるが、あまり志度に足を踏み入れる機会はなかった。子供が志度高校に入学して関わりを持つ機会が多くなったが、子供が志度高校に入学して良かったと感じている。志度高校は地域に情報や生徒を送り出す機会が多いと思っているが、それが一部の生徒だけの自己満足で終わるのならそれは残念なことだと思う。他の地域から来た生徒達がどれだけ志度を好きになれるかということに価値があると思う。小・中学生の頃には校内では挨拶ができていたが、校外に出ると全く挨拶はできていないという話を耳にしていた。高校生になった今、これだけ外部の人間に挨拶ができるなら、将来どこに行ってもやっていけるだろうと安心している。

司会：地域と関わりたくない、そんな活動はうっとうしいと考えている生徒もいると思うので、そういう生徒も巻き込んで活動していくことで、そう考える生徒も自然に同じ色に染まっていくと思うので、頑張って引っ張って行って欲しい。

◎フォーラム②「服装から志度高校のイメージをさらに良くするためにできること」

・・・・・・【生徒側提案・司会進行 三好天都】

資料：志度高生の身だしなみに関するアンケート結果（全校生・保護者アンケート）

<議題提案の趣旨説明>

司会：生徒の中で、身だしなみの良くない人がいて、志度高校のイメージを悪くしているのではないかという意見がある。生徒会で生徒に対して服装に関するアンケートをとり、集計した結果を資料としてまとめた。これをもとに生徒会で分析し、話し合った結果、「身だしなみを整えるのは何のためか」「クラスごとに指導に差があるのではないか」という2点について討議していきたい。

<討議>

生徒：「身だしなみを整えるのは何のためか」という問いのアンケート結果を見ると「だらしない格好はかっこうわるい」「社会で困らないように習慣を身につけておくために」という項目に「そう思う」人の割合が低い。特にこれから就職・進学をしようとしている3年生の方が、割合が低い。学年があがるにつれて低くなっているのは問題である。また、「だらしない格好はかっこうわるい」「社会で困らないように習慣を身につけておくために」という項目で「そう思う」人の割合が低い理由は、周りから見られているという意識が低いせいではないか。端からみてだらしない格好はダメ。端から見られている意識を高めることで「そう思う」人の割合が増えるのではないかと思う。例えば、インターンシップを年2回に増やすのはどうか。地域との交流の機会を増やすことで、見られている意識を持てるのではないか。仮に、先生の指導回数が少なくなったとしても、生徒の意識が高ければ問題はないと考えている。

司会：周りから見られているという意識を高めるために、インターンシップの回数を増やすという意見が出ましたが、その点について先生方のご意見をお願いします。

教職員：インターンシップは進路指導が中心に行なっている。個人的な意見として、本当に生徒が望むのならば、可能ではあるが、一部の意見なのか全体の意見なのか、回数を増やすのか、日数を増やすのか。先生方の中にも色々な意見があるので、まとまらないのが現状である。生徒側から強い希望があるのであれば、検討の余地はある。その意見は生徒会で話し合った結果の要望なのか、そういう意見もあるということなのか聞かせて欲しい。

生徒：生徒会や周りの人と話したけなので、全体の希望は分からないが、個人としては学ぶことも多く、とても良い機会であるので、インターンシップは増えると良いと考えている。

生徒：回数を増やすのが良いと思う。日数を増やすと慣れと共に服装が乱れる可能性があるので、回数が増えるのがよいと思う。

教職員：以前に、普通科高校であったが、進路開拓と増加単位という意味合いで行なっていた。インターンシップを受入れる企業の側の問題もあるが、増やすことは志度高校の教育課程上、可能なことだと思う。

司会：保護者側からの意見をお願いします。

保護者：いろんな企業を見る機会を増やすという意味で、日数よりも回数を増やすのがいいと思うのですが、企業の側からの意見はどうか？

地域代表：我が社は10年くらい前から、1週間から20日くらいまで、大学生に対してもインターンシップを受入れている。たった1週間や10日の中にも色々な経験やドラマがある。人間関係もある。3日というのは短いと思う。短時間ですごく成長する。就業態度の良い人も悪い人もいて、「すべてが師」になる。社会と接する機会を増やすことは意味のあることである。

教職員：キャリア教育上、インターンシップは意味のあることだと思うし、回数や期間を増やすことは、可能であるのなら、増やせば良いと思っている。ただ、ごく一部の服装のだらしない生徒の意識改善という意味では、インターンシップがどう効果があるのかが分からない。だらしない格好をしている生徒は、違反が分かっている、そうしているのだと感じている。現に、就職試験などの時には、服装を整えて受験に行く姿を見る。インターンシップにこだわらなくても良いと思う。

生徒：インターンシップが直接改善につながらなくても、高校生は社会に出るということに対して経験不足だと考えている。先ほどの議題の「地域に出る」ということも含め、表に出る機会を増やすことで、身だしなみに対する意識の向上にもつながるのではないかと思う。

地域代表：いろいろな生徒がいるのは分かる。ごく一部の問題だけでなく、社会と触れ合い、地域に出て行くことは服装への意識付けのチャンスにはなると考える。結果として服装が直らなくても、そのことに気づく機会になるという意味で、その体験・経験は意味があることだと思うので、ぜひとも機会を与えてあげて欲しい。

司会：先生方で検討して頂き、実現可能な物があれば実施して欲しいと考えています。次に、もう一つの「クラスによって指導に差がある」という意見について討議したい。この件について生徒側からの説明をお願いします。

生徒：アンケート結果からも生徒は「クラスによって指導に差がある」と考えていることが分かる。服装検査をする時に、決められた先生がすべての生徒を見ることや、抜き打ちの服装検査を行なうことはどうだろうか。

教職員：具体的に、何に指導の差を感じているのか教えて欲しい。

生徒：髪の色・制服の着こなしなど、生徒同士で見ると目につく。

教職員：80%程度はほぼ普通の着こなしをしていると感じているが、指導の差を感じたことを理由にして良くない着こなしに流されたりしないで、普通の着こなしをして欲しい。髪の色など、先生方も人間なので、判断に微妙な差があるのは仕方がないところがあると思うが、あまりにも目に余るものはどの教員も指導していると思う。すぐに直せるものと、直せないものもあるので、改善までに時間差もある。違反している生徒に対して何も指導せずに放置しているわけではない。

保護者：私であれば、Aという先生は良いと言って、Bという先生がダメだといった時は、自分に都合の良い方を採用すると思う。要するに守りたくないから守らない理由を探しているだけだと思う。明らかに差別的な指導を受けたのなら、我々保護者に言ってくれば良いと思うが、わざわざとりあげるほどの話とは思えない。あなた方が社会に出て仕事をしていけば、お客や上司に理不尽に怒られたりする経験もすると思う。先生方にもそんな経験はあるのではないかと思う。

教職員：服装検査をしなくても良い学校にしたいというのが自分の夢である。服装検査や注意などする必要もない、みんながきちんとした身だしなみである学校になることが自分の理想である。そういう学校であれば、抜き打ち検査などという話も必要ない。

教職員：自分は6年間この学校に勤務しているが、服装規定はだんだん緩くなってきているにもかかわらず、生徒の服装は良くなってきていると感じている。服装について注意する必要もなく、みんながのびのびやっつけていけるのが理想だと思う。アンケートの数字だけにこだわりすぎるのは望ましくはないと思う。

生徒：先生方の言うように、自分の意識次第で服装が変わるのはそのとおりであると思う。

教職員：前任校で生徒指導をしていたが、同じような不満が出て、同じ人間の目で全ての生徒をチェックした経験がある。今の志度の状態は、服装検査を熱心にしなくても良い学校であると感じている。今回の議題を見た時、服装指導を緩くしてくれという話をするのかと思ったが、逆の話なので、みんながそういう意識でいるのなら、自然に良い方向へ向かうのではないかと思う。

教職員：服装指導を厳しくしてもあまり効果は出ないと思う。毎日が就職試験だと思って服装を正して来れば良いという話をしたことがある。

教職員：抜き打ちの服装検査をすることは、私が担当である限りするつもりはない。結局は生徒一人一人の自覚の問題であると思う。それが、最初の議題である地域との関わりにもつながると思う。

地域代表：厳しさというものは、繰り返すことによって身につくことだと思う。自分自身、学生時代に恐い先生に厳しく指導して頂いたことが、今の自分につながっていると感じている。恐い先生の厳しい指導は、自分たちのためを思っているの注意であり、優しさである。厳しい先生ほど本当の意味で優しい先生であることを理解してほしい。また、採用する側の企業の人間として言えば、その生徒の服装や態度がその場限りの付け焼き刃的なものであれば、面接で3分か5分位話しただけですぐ分かる。

4 指導助言（香川大学 柳澤教授）

とても良い時間を過ごさせて頂いた。今回初めて地域の方の参加があった。ますます学校会議の可能性が広がってきたと感じる。必要があれば、必要な形で改善されていくことは意味のあることだと考える。それぞれ、学校を良くしたいという思いは共通である。いろいろな考えを知ることの重要性を改めて感じた。違う考え方の接点を探していくことに意味がある。さらに重要なことは、この場の雰囲気や、参加していない生徒・保護者・教職員にも伝えていくことである。そのためのシステムをつくることを考えて欲しい。情報をみんなで共有化する必要がある。

5 校長挨拶

地域の人から愛され必要とされる志度高校を目指している。貴重なご意見を沢山いただいた。挨拶運動では通りかかる車や人にも挨拶をするが、そのうち、5人に2人くらいは挨拶を返してくれる。これも地域とのふれあいである。本校は88年の歴史があるが、本校の歴史や伝統は職員・生徒・保護者の活動や思い、地域の方の支援や期待、要望などがこの校風や伝統をつくり上げてきたといえる。今後もみなさんのご意見をうかがいながら、この伝統や校風を進化させたいと考えている。服装についての議題では、生徒のみなさんの志度高校を良くしたいという思いと生徒指導の先生の生徒への信頼がよく感じられた。

先日企業の方々と話をする機会があったが、その時に「高校生に望むことは、素直であること・挨拶ができること・服装など身だしなみがきちんとできることである。その様な生徒を採用したい。」という話を聞いた。紹介しておきます。

今日の話し合いでは立場の違うもの同士であっても、志度高校を良くしたいという共通の思いが感じられて嬉しく思った。

